

宇治市
防災広報

●発行 宇治市 ●編集 広報課

災害に備えて

9月4日太陽が丘をメイン会場に
総合防災訓練を実施します

九月四日(水)は、京都府総合防災訓練の日です。京都府・宇治市両防災会議では、この日、太陽が丘と宇治川左岸河川敷(伏見区向島津田町)の二会場で、防災関係機関の従事者や市内小・中学校の児童・生徒などのほか、市民の参加をいただいて総合的な防災訓練を行います。市民の皆さん多数のご参加をお願いします。



水防工法の習熟を図る消防職員の水防訓練（6月11日宇治川大曲付近）

訓 練 の 想 定

大型で強い台風が、近畿地方から北陸地方を北上したため、府内各地で集中的に大雨が降った。このため、淀川（宇治川）では、向島地点をはじめ各地ですでに警戒水位を突破し、なお、増水が続いている。

また、9月4日午前9時、宇治市を中心に、マグニチュード6.5の地震が発生し、宇治市では、全市域にわたり震度5を記録、一部地域では、震度6（烈震）を記録した。

淀川（宇治川）堤防は、各所で亀裂を生じ、一部で浸水がはじまり、また、人家密集地を中心に火災が発生、山間部では、地すべりによる災害の発生も心配される状態となった。

防災関係機関の懸命の努力により、同日、正午には、防災対策活動も成功し、被害拡大の恐れも去った。

太陽が丘で
総合防災訓練

午前九時、市役所と府宇治
地方振興局にそれぞれ災害対
策本部（支部）が設置されま
す。同時に広報車による大衆
訓練が開始。京都府警、市消
防団、市職員や教員の誘導で
周辺住民と小・中学生、幼稚
園児あわせて約千五百人によ
る訓練会場（太陽が丘）への
避難訓練が行われます。

宇治川河
水防訓練

午前九時五分、府と市の災害対策本部が現地に移設され同日正午まで各機関の訓練が行われます。

各機関の
訓練のあらまし

津川水防事務所と、府土木事務所、市建設などが、くいだ積土俵工などの水防訓練を行います。

訓練に参加する

[illegible]

みんなそろってご参加を

京都府総合防災訓練

とき・ところ 昭和60年9月4日(水)

・午前9時～正午

第1会場 京都府立山城総合運動公園(太陽が丘)

・午前8時半～10時半

第2会場 京都市伏見区向島津田町地先
(宇治川左岸河川敷)

●問い合わせ

市役所企画管理部総務課(☎223141)へ

市内地形図

THE CITY OF UJI

水源を琵琶湖に発し、千古の歴史の光と影をたたえる宇治川。この川は、過去幾度となく氾濫（はんらん）を繰り返し、郷土に多大な被害をもたらしています。今日では、天ヶ瀬ダムの完成以後大きな災害は無く、また河川改修などの治水事業も進行中で、もはや昭和28年(台風13号)のような深刻な被害の再発する可能性は、極めて少ないと言えます。しかし、宇治川が市域の中央部を貫流し、両岸に巨椋(おぐら)池干拓地などの低湿な流域が展開するという地理的な特徴は、決して私たちに災害への備えを怠ることのないよう戒めているようです。この覧では、本市が過去に被った大災害は、ほとんど水害であるという事実から、宇治川を中心とする本市の地形と排水事業についてお知らせします。



大島排水機場

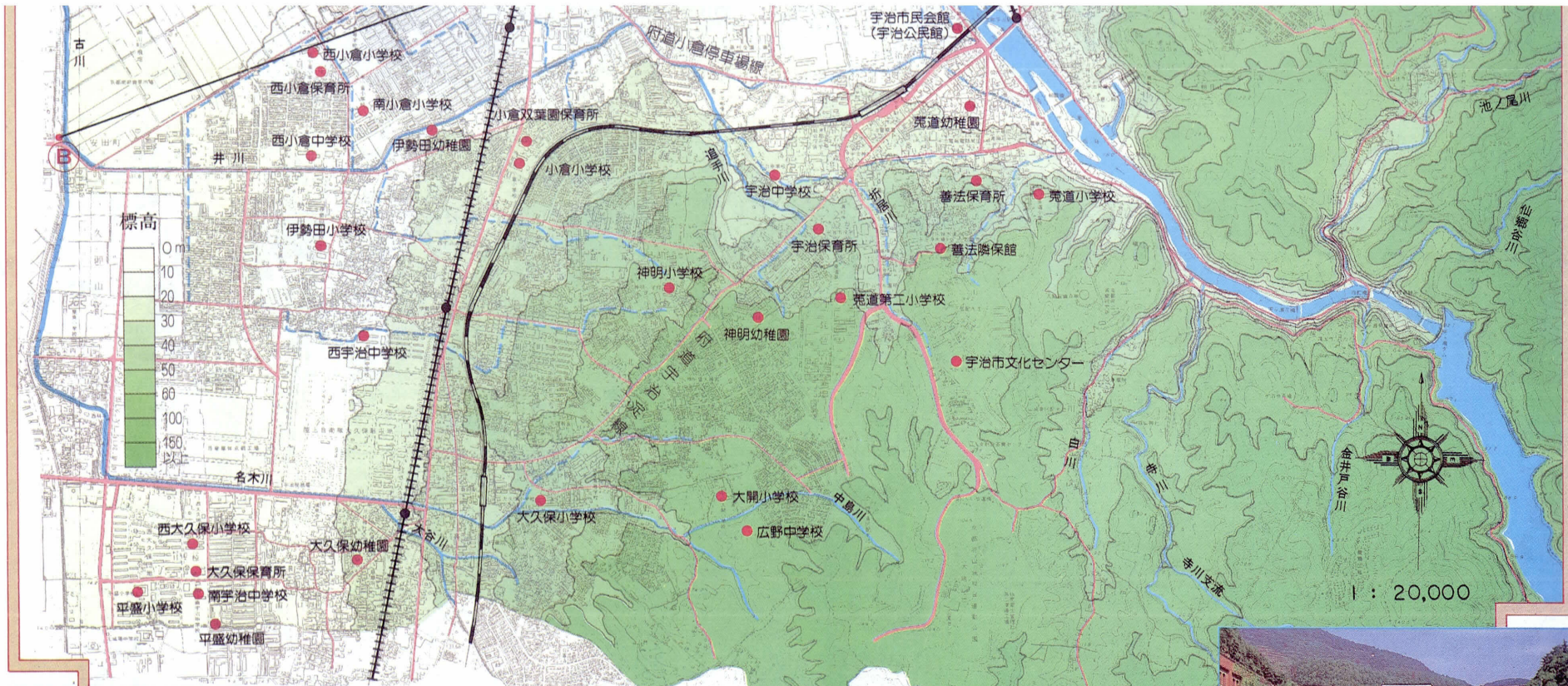
昭和44年4月に設置。毎秒3立方メートルのポンプを2基有し、市北部の洪水調節を担う。山科川に排水。

所在地：京都市伏見区桃山町大島

針ノ木排水機場

所在地…宇治市五ヶ庄針ノ木原
概要…昭和51年10月に設置。毎秒3立方メートルのポンプを1基有し、市東部(宇治川右岸)の洪水調整を担う。宇治川に排水。

所在地…宇治市五ヶ庄針ノ木原

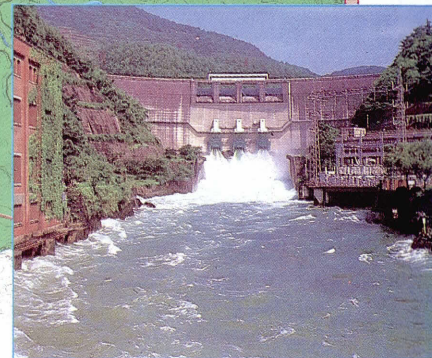
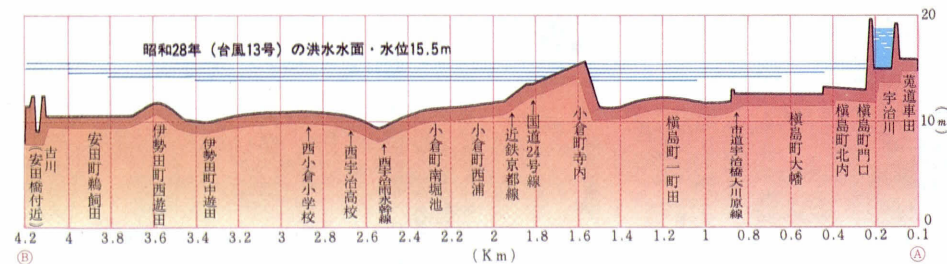


巨椋池土地改良区排水機場

■所在地…京都市伏見区向島下五反田町40・41番地
 ■概要…昭和9年7月に設置。13基（総能力毎秒48.93立方メートル）のポンプを有し、巨椋（おぐら）池干拓地を中心とする宇治市・久御山町の広範囲な地域の洪水調節を担う。宇治川に排水。なお、隣接して久御山排水機場（建設中）が、設置されている。

凡例
 河川 ———— 避難場所 ●
 排水路 - - - - 主要道路 ————

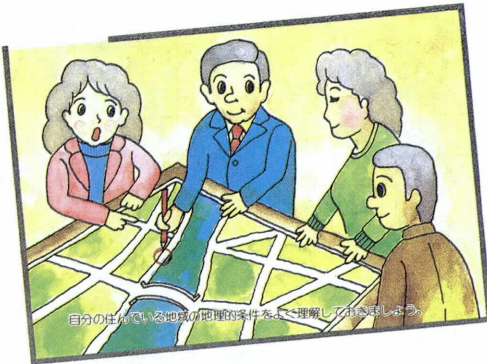
標高参考図 (A)~(B)



天ヶ瀬ダム

■所在地…宇治市横島町六石・横尾山 ■概要…淀川水系の治水計画を抜本的に改訂するため、昭和39年に完成。洪水調節、用水補給、発電、水質保全などを目的とする、ドーム型アーチ式の特定多目的ダム。総貯水容量2千6百28万立方メートル、計画最大放流量毎秒840立方メートル。淀川本川の洪水時に放流量を毎秒160立方メートルに低減。

災害を未然に防ぐために



すく、少しの雨や風でも
思わぬ被害を受けます。
③家の周りの排水が良く、
危険な箇所は土盛りなどを
して浸水を防ぎましょう。

大切なのは日頃の備え

集中豪雨や台風が
近づく前に
①家の内外を点検しておき
ましょう。屋根が傷んでいたり、
排水溝が詰まっていたり

窓や戸をばたき付けに
して板を当て補強します。
煙突、看板、塀などは、頑
丈なものに縛りつけて補強
します。
②停電に備え、懐中電灯や

。下着やタオルを二、三着
。ロープや靴、ヒモ。
。メートル程度の竹か棒。
。救急用品。
。貴重品や現金は身につ
け、荷物はできるだけ整理し

。浸水の恐れのある地域で
は次のことに注意しましょう。
。財道具などを家の上や二
階へ移す。
。押入れの下段のものは
できるだけ下段へ移す。
。がけ付近の人は、大雨が続
くと地盤がゆるみ、がけ崩
れや起きの危険があるので
十分注意する。

台風、大雨、突風、雷、地震——大自
然のこういった現象は、時によって私た
ちの命や財産を奪い取っていきます。ど
んなに文明が進んでも大昔から繰り返し
続いている自然の猛威をおさえることは
できません。しかし、少なくとも個人の
努力で、身近な範囲の防災は可能はず
です。それにはまず、正しい知識を持つ
ことが重要です。



▲昭和28年9月25日の台風13号の被害で宇治
川が決壊。写真は、小倉町西山から望む近鉄
軌道で、中央は小倉駅の被害の状況。この災
害は典型的な雨型台風であった。

トランジスタラジオ（予備
の電池）を用意しておきます。
④安全な避難場所や避難路
を確かめておきましょう。
⑤住居付近の地形からみて
どのような災害が起こるかを
知っておく。例えば、がけ崩
れの恐れがある箇所では、次
の様な対策をとり、隣近
所の人とも災害時の連絡方法
をまもっておく。
。水除の掃除をし、雨水がが
けに流れないようにする。
。不安定な土壌を切り取り、
ビニールなどで地肌を覆い、
雨水の浸透を防ぐ。
。構造物の異常があれば、修
理、補強する。
⑥いつでも避難の出来るよ
うに、早目に次のものを用意
しておきましょう。
。飲料水。大人で一日約二リ
ットルが目安。赤ちゃんの
いる家庭では、粉ミルクを
溶かす水が必要。
。非常食。せめて二三日
分は確保しましょう。

京都府気象台が発表する注意報と警報	
区 分	内 容
風 雨 注意報	平均風速がおおむね毎秒12mを超え並雨以上の 雨をともない被害が予想される時。
強 風 注意報	平均風速がおおむね毎秒12mをこえ主として強 風による被害が予想される時。
大 雨 注意報	雨量がおおむね次の基準に達し、主として大雨 による被害が予想される時。 1 時間雨量20mm以上で総雨量50mm以上に達する 時。 3 時間雨量30mm以上で総雨量50mm以上に達する 時。 24時間雨量平地70mm以上、山地150mm以上に達する 時。
洪 水 注意報	洪水によって被害があると予想される場合。 1 時間雨量が30mm以上で総雨量が平地で80mm、 山地で100mmを超えると予想される場合又は3 時間雨量が50mm以上で総雨量が平地で80mm、山 地で100mmを超えると予想される場合。 又は24時間雨量が平地で100mm、山地で150mmを 超えると予想される場合。
雷 雨 注意報	激しい雷雨が起こって落雷や、降ひょうの恐れ があると予想される時。
大 雨 警 報	雨量がおおむね次の基準に達し、主として大雨 によって重大な災害が起こるおそれがあると予 想される時。 1 時間雨量40mm以上で総雨量100mm以上に達する 時。 3 時間雨量70mm以上で総雨量100mm以上に達する 時。 24時間雨量平地150mm以上山地300mm以上に達する 時。
洪 水 警 報	洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると 予想される場合。 1 時間雨量が40mm以上で総雨量が100mmを超え ると予想される場合。 又は3 時間雨量が70mm以上で総雨量が100mmを 超えると予想される場合。 又は24時間雨量が平地で150mm、山地で300mmを 超えると予想される場合。

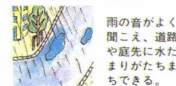
※注意報と警報の種類は、上表のほかに風雪・霜・異状乾燥
などの注意報や暴風雨・大雪警報などがあります。

こんな所が危険です 雨が降ったら要注意



1 時間の雨量の目安

5ミリ～10ミリ



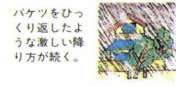
10ミリ～20ミリ



20ミリ～30ミリ



30ミリ以上



雨の降り方で、雨量の目安を予想して、早めに適切な行動を。

避難時の注意

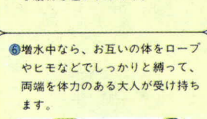
①いよいよ避難するとなったら、消防署や警察署の指示に従い、家族そろって行動します。老人や子ども、病人などのいる家庭は早目に避難します。



⑤道に沿って川や池がある場合には、風に吹かばされて落ちないように風に背って歩きましょう。



②出水時の避難では、履物は普段履きなれた革靴か運動靴にします。長靴は水が入ってかえって歩きにくいものです。水面下には、危険なガラスの破片やガレキなどが山積みになっています。踏みつけても、足がある程度保護できる丈夫な履物を選びましょう。



③壊れそうな塀の近くを通るときは、下敷きにならないように塀から離れて歩きます。



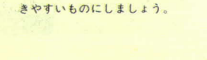
⑥先頭に立つ人は1m程度の竹や棒をツエにして、下水やミソなど深みにはまらないよう足元に注意します。



④道路が冠水して海のようになっているときには、知らない場所や道には決して一人では入り込まないようにしましょう。



⑦避難時の服装は、活動しやすいものをキチンと身につけます。下には保温用に毛織物、上にはレインコートなどがよいでしょう。頭もヘルメットや防災ズキンで保護します。なるべく派手な色で目につきやすいものにしましょう。



●台風メモ

▶風速と被害の発生状況

風速10メートル以下……傘が壊れる。
風速15メートル……とりつけの悪い看板やトタン板がとぶ。
風速20メートル……子どもは倒れ、大人も身体を傾けやうと振る。
風速25メートル……煙突や屋根がわらが飛び、アンテナが倒れる。
風速30メートル……雨戸がはずれ、しっかりしない家は倒れる。
風速40メートル……小石が飛び散り、列車も倒れるほどの強さ。
風速50メートル……普通の木造家は倒れ、木も根ごと倒れる。